

農業参入により循環型リサイクルループの確立 (株式会社エイゼン)

＜法人の概要＞

所在地：愛知県知多郡武豊町

設 立：昭和 58 年 5 月

資本金：1,800 万円 売上高：163,600 万円（平成 26 年度）

（うち農業：18,780 万円、うち農業関連事業：109,054 万円）

役 員：4 名（うち農作業従事 1 名）従業員数：71 名、うち農業従事者 6 名

経営面積：23ha（うち約 22ha が耕作放棄地：H26）

営農作物：飼料作物（デントコーン等）

農業開始時期：平成 22 年 4 月

業種：産業廃棄物処理、リサイクル関連（植物残渣等で堆肥製造）



(株)エイゼンの本社



デントコーンの圃場

＜農業参入に至った経緯・動機＞

○平成 22 年度に愛知県が委託者で、経済産業省のふるさと雇用再生特別交付金を利用した「あいちゼロエミッション・コミュニティ構想具体化支援業務」（耕作放棄地を活用した地域内資源循環）による仕組みと生ゴミの飼料化とコンポスト化を契機として農業参入し、耕作放棄地再生に取り組んだ。

＜H22 地域資源循環型地域活力向上対策事業を活用してコンポスト導入＞

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

○(株)エイゼンは、農家であった先代が昭和 32 年に屎尿収集・運搬業を武豊町で創業し、現在、廃棄物処理関連業者として事業を展開している。

○農地は上記の事業を行うために愛知県から紹介してもらい、事業がうまくいくにつれ、近隣市町村から耕作放棄地の解消のため依頼がくるようになった。

○作物については、当初、ソルゴーを作ってバイオエタノールを生産する予定であったが、採算があわなく継続性がないので、雨水のみで生産のできるデントコーンを作ることにした。岡崎市の愛知県畜産総合センターなどで、ノウハウを勉強した。

○機械・施設は、最初の 2 年間は借りたが、現在は必要な中古機械を購入している。

<営農開始から現在まで>

○食品製造会社からの食品廃棄物を処理し、肥料化や飼料化する本来のリサイクルに、酪農が盛んで家畜糞尿処理の問題と耕作放棄地が増加する問題を抱える地域内で、愛知ゼロエミッションの事業を導入することで、耕作放棄地に家畜糞尿堆肥を還元し、そこで生産されたデントコーンを再び畜産農家に供給するエイゼンの循環型サイクルループを確立することができた。

○当初、反当たり3～4トンを生産する計画であったが、実際には反当たり2～2.5トンしか収穫できなかった。二期作で行わないととがとれない。

○収支として農業は今のところ赤字であるが、見通しは悪くない。うまくスタート出来ている理由は、①会社の技術を活用でき、食物残渣・家畜糞尿等からの堆肥製造のノウハウがあった②建設業も行っているので、重機による耕作放棄地の解消が容易にできた③生産された飼料は、糞尿を排出する酪農家が購入するなど販路が確定している④土地に関して市町等のバックアップがあった⑤初期投資の補助があったことなどである。

<今後の農業経営の展開方向>

○今後、40haないと採算にあわないことから、その程度まで経営規模を拡大していこうと考えている。しかし、機械の能力は25haしかないので、一期作と二期作を組み合わせるなど工夫して対応していきたい。

○廃棄物処理から循環というシステムができた。これはいろいろな人の協力がなければできなかった。この仕組みが継続できるよう、後押しいただければ幸いである。何より農業参入したことで、みんなによろこんでもらえてよかった。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

○農業経営（人件費含む）を黒字にするには、機械化と規模拡大が必要である。



中古農業機械



食品廃棄物を処理する施設